

序論

古今集の詞書は、和歌を説明するだけでなく、
配列に関連した役割も持っているのではないか

【古今和歌集】

- ・ 905年頃成立の勅撰和歌集
- ・ 醍醐天皇の勅命により、私家集などを用いて四人の撰者が編纂
- ・ 構造・配列が緻密

【詞書】

- ・ 和歌を説明する文章（右図参照→）
- ・ 古今集では多くの和歌に付されている
- ・ 内容は撰集資料によるようだが、
撰者らによる情報の付加はあまり考えられないとされる

詞書
ふる年に春立ちける日よめる
在原元方
年の内に春は来にけり一年を
去年とやいはむ今年とやいはむ

本論

【恋の部】

≪ 詞書 ≫

「題しらず」が多い
(詠んだ状況がわかっているはずの
撰者詠でも「題しらず」とされている
ことがある)

≪ 配列 ≫

大筋は、和歌に詠み込
まれた恋の場面の展開
に沿っている

心情を詠んだ和歌の内容を
中心に配列を行う場合、
恋の展開順に並べるのに
詞書は不要とされたのでは
ないか？

- ・ 恋の場面ごとの心情を詠んだ和歌が多い
- ・ 詞書が付されると人間関係についての描写が含まれることも
(相手・状況などの明示)

⇒ 一首ずつの和歌の流れをよりスムーズにする工夫として「題しらず」とした
と考えられる

【四季の部】

≪ 詞書 ≫

時を表す語が、特に
撰者詠の詞書に多く見られる

≪ 配列 ≫

大筋は時間の流れに
沿っている

詞書は撰者らによって恣意的に
付されたものではないと思われる
しかし、撰者詠の詞書であれば
ある程度内容に融通がきくのでは？

- ・ 撰者らの私家集との詞書比較
→ 古今集の方にのみ時を表す語が含まれている事例が確認された
- ⇒ 意図的に詞書に時を表す語を入れることにより、時間の流れに沿った配列を
補強しわかりやすくしたと考えられる

結論

恋の部では、「題しらず」を多くすることで配列をよりスムーズに、四季の部
では時を表す語を加えることで配列を支えるように、工夫されている
この結果は古今集の配列の緻密さが、詞書にまで至ることの現れである